

# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

## 廿日市市公共交通協議会

### 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



資料2

#### 廿日市市の概要

- ・平成15年3月に佐伯町、吉和村が合併、平成17年11月に大野町、宮島町が合併(旧1市3町1村が合併)
- ・人口 114,173人(令和2年国勢調査)
- ・面積 489.49平方キロメートル(令和2年国勢調査)

#### 協議会の構成員

廿日市市、利用者・住民代表、運行事業者(鉄道・バス・タクシー)、広島県、中国運輸局、学識経験者(広島工業大学)、(社)広島県タクシー協会、私鉄中国地方労働組合、廿日市警察署、港湾管理者、道路管理者、広島市、大竹市

#### 概 要

廿日市市は平成15年と平成17年の2度の合併により、南は瀬戸内海に浮かぶ宮島から北は中国山地に位置する吉和までを市域とする広域な市となった。急速な少子高齢化の進展や人口減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持存続が困難な状況が発生している。一方で、中山間部、島しょ部では高齢化が進み、マイカーを自由に利用できない高齢者、通学者等を中心に、公共交通の必要性は高まりつつある。このうち、中山間部における持続可能な移動手段を確保・維持する取組として、地域内の主要施設や幹線路線バスとの交通結節点までを区域運行によりカバーするデマンド型乗合交通「佐伯デマンドバス(佐伯地域)」「吉和デマンドバス(吉和地域)」を「地域内フィーダー系統」として平成23年12月より運行。また、地域公共交通を継続的に維持するため、廿日市地域では令和5年12月1日より広電バス(阿品台団地線、四季が丘団地線)と廿日市さくらバス(阿品台ルート、宮内ルート)を一体的に運行することで一定の利便性を確保している。

#### 協議会の主な取り組み

- ・効果的、効率的で持続可能な運行に向けた自主運行バス等の再編
- ・さくらまつりブース出展による公共交通利用意識啓発
- ・「廿日市市地域公共交通網形成計画」の策定協議(平成28年3月策定済み)
- ・「廿日市市バス路線等再編方針」の策定協議(平成29年3月策定済み)
- ・「廿日市市地域公共交通再編実施計画」の策定協議(平成30年10月策定済み)
- ・「廿日市市地域公共交通計画」の策定協議(令和5年7月策定済み)
- ・「廿日市市地域公共交通利便増進実施計画」の策定協議(令和5年11月策定済み)

#### 協議会における検討

協議会の開催状況 令和6年10月～令和7年9月 計4回開催

- ・第5回(12月20日) 市自主運行バスの運賃改定について  
市自主運行バスの高齢者運賃割引実証実験について 他
- ・第6回(3月18日) 令和7年度事業計画及び予算について  
運転手採用支援金について 他
- ・第1回(6月27日) 令和6年度廿日市市公共交通協議会収支決算書  
佐伯さくらバス(浅原線)・佐伯デマンドバス(浅原線)のダイヤ改正について 他
- ・第2回(9月26日) 廿日市さくらバス阿品台ルート及び宮内ルートの  
運行事業者の変更について  
吉和さくらバスにおける貨客混載の実証運行について 他

## 定量的な目標・効果

※目標利用者数のみ記載。財政支出額及び収支率は資料1に記載。

### 区域デマンド型

＜目標：年間のべ利用者数＞

【佐伯地域・吉和地域】 玖島・友和線1,062人 所山線116人 浅原線1,283人 中道・栗栖線266人 吉和線786人

＜目標値の設定方法＞

各路線の年間のべ利用者数（目標値）＝佐伯地域：各路線の過去3年間の平均値

吉和地域：過去3年間の平均値＋5％

＜効果＞

- ・利便性の向上（日常生活行動に合致したダイヤの設定、幹線路線バスとの乗り継ぎ改善、既存の交通空白地域や個別施設への乗り入れ等）による高齢者等を中心とした住民の外出機会の増加
- ・持続可能なサービスとするための運行の効率化、「吉和ふれあい交流センター」や診療所の開所時間等を考慮したダイヤの設定
- ・通勤・通学・通院・買い物での移動など、日常生活を送る上で必要不可欠な移動手段の確保

## 昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・利用者数の増加に向けた周知やPR機会が少なかったため、引き続きその実施に向けて取り組む。

## 実施した利用促進策

- ・吉和線について、NPO法人ほっと吉和が運行することで、地域住民の意見・要望を取り入れやすい環境としている。
- ・はつかいち桜まつり、広島電鉄（株）が主催するDENフェス、大野みんなの祭りで、PRを行い、利用促進を図った。
- ・佐伯地域の民生委員の総会に出席し、デマンドを含めた佐伯地域の公共交通機関の説明を行った。

## 昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・目標未達成の項目に対し、引き続き要因分析を行い、目標を達成できるように努めていく。
- ・利用者利便性が向上し、利用の増えてきている路線を維持し、更に利用者が増えるように取り組む。

## 地域住民の意見の反映

- ・地域住民代表として、協議会委員に各地域から代表者1名ずつが出席し、意見を集約している。
- ・支所や運行事業者が利用者等から聴き取った意見を踏まえ、利用促進策や運行内容の改善について検討した。
- ・佐伯地域の民生委員の総会で出た意見をR7.10月の浅原地域のダイヤ改正内容に盛り込むように検討している。

## 定量的な目標・効果

※目標利用者数のみ記載。収支率及び財政支出額は資料1に記載。

乗合バス(定期)型

＜目標:年間のべ利用者数＞

【廿日市地域】(阿品台ルート)57,700人 (宮内ルート)27,800人、(原ルート):32,900人

＜目標値の設定方法＞

各系統の利用者数(目標値)	=	阿品台ルート	公共交通計画における公共交通利用者数の指標から算出
		宮内ルート	公共交通計画における公共交通利用者数の指標から算出
		原ルート	公共交通計画における公共交通利用者数の指標から算出

＜効果＞

- ・利便性の向上(日常生活行動に合致したダイヤの設定、鉄道及び幹線路線バスとの乗り継ぎ改善、民間路線バスとのダイヤの調整等)による高齢者等を中心とした住民の外出機会の増加
- ・持続可能なサービスとするための運行の効率化

## 昨年度の自己評価に対するフォローアップ

- ・利用者数は昨年実績より増加傾向にあり、引き続き路線の維持確保を行い、利用者の増加に取り組んでいく。

## 実施した利用促進策

- ・はつかいち桜まつり、広島電鉄(株)が主催するDENフェス、大野みんなの祭り、PRを行い、利用促進を図った。
- ・市自主運行バス全線にパスピーに変わる新たなキャッシュレス決済システム機器(モビリーデイズ)を導入し、利用者の利便性向上を図った。
- ・要望のあった地域・地区に対して、バスの乗り方教室を複数回実施した。

## 昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

- ・目標未達成の項目に対し、引き続き要因分析を行い、目標を達成できるように努めていく。
- ・利用者利便性が向上し、利用の増えてきている路線を維持し、更に利用者が増えるように取り組む。

## 地域住民の意見の反映

- ・地域住民代表として、協議会委員に各地域から代表者1名ずつが出席し、意見を集約している。
- ・地元の学校や利用者等から聴き取った意見を踏まえ、利用促進策や運行内容の改善について検討した。

## 事業実施の適切性

- ・佐伯地域:計画どおり実施されている。
- ・吉和地域:計画どおり実施されている。
- ・廿日市地域:計画どおり実施されている。

## 目標・効果達成状況

※目標利用者数のみ記載。財政支出額及び収支率は資料1に記載。

### <佐伯地域:区域>

- ・玖島・友和線1,525人 目標達成(目標1,062人:達成率143.5%)
- ・所山線121人 目標達成(目標116人:達成率104.3%)
- ・浅原線 1,131人 目標未達成(目標1,283人:達成率88.1%)
- ・中道・栗栖線222人 目標未達成(目標266人:達成率83.4%)

### <吉和地域:区域>

- ・吉和線1,804人 目標達成(目標786人:達成率229.5%)

### <廿日市地域:路線>

- ・阿品台ルート 55,742人 目標未達成(目標57,700人:達成率96.6%)、宮内ルート 39,757人 目標達成(27,800人:達成率143.0%)
- ・原ルート 36,387人 目標達成(32,900人:達成率110.5%)

## 事業の今後の改善点

### <佐伯地域>

・区域デマンド型は中山間地域の人口減少も影響して、稼働率・利用者数ともに全体的に減少傾向にあるため、効果的な利用促進策について検討が必要であり、新規ユーザの掘り起こしを行うなど、利用者数の増加を図っていく。

・今後も支所や市民センターとも協力し、PRの機会を増やすとともに、デマンドバスの乗り方教室の実施など、工夫しながら周知を図る。

### <吉和地域>

・NPO法人ほっと吉和は、デマンド運送・定期運送(巡回バス)と2種類の運行形態を有しており、更に吉和地域には市自主運行バス(路線定期)が運行していることから、これらの交通モードの重複区間を解消し、改善を図るように引き続きNPO法人に促していく。

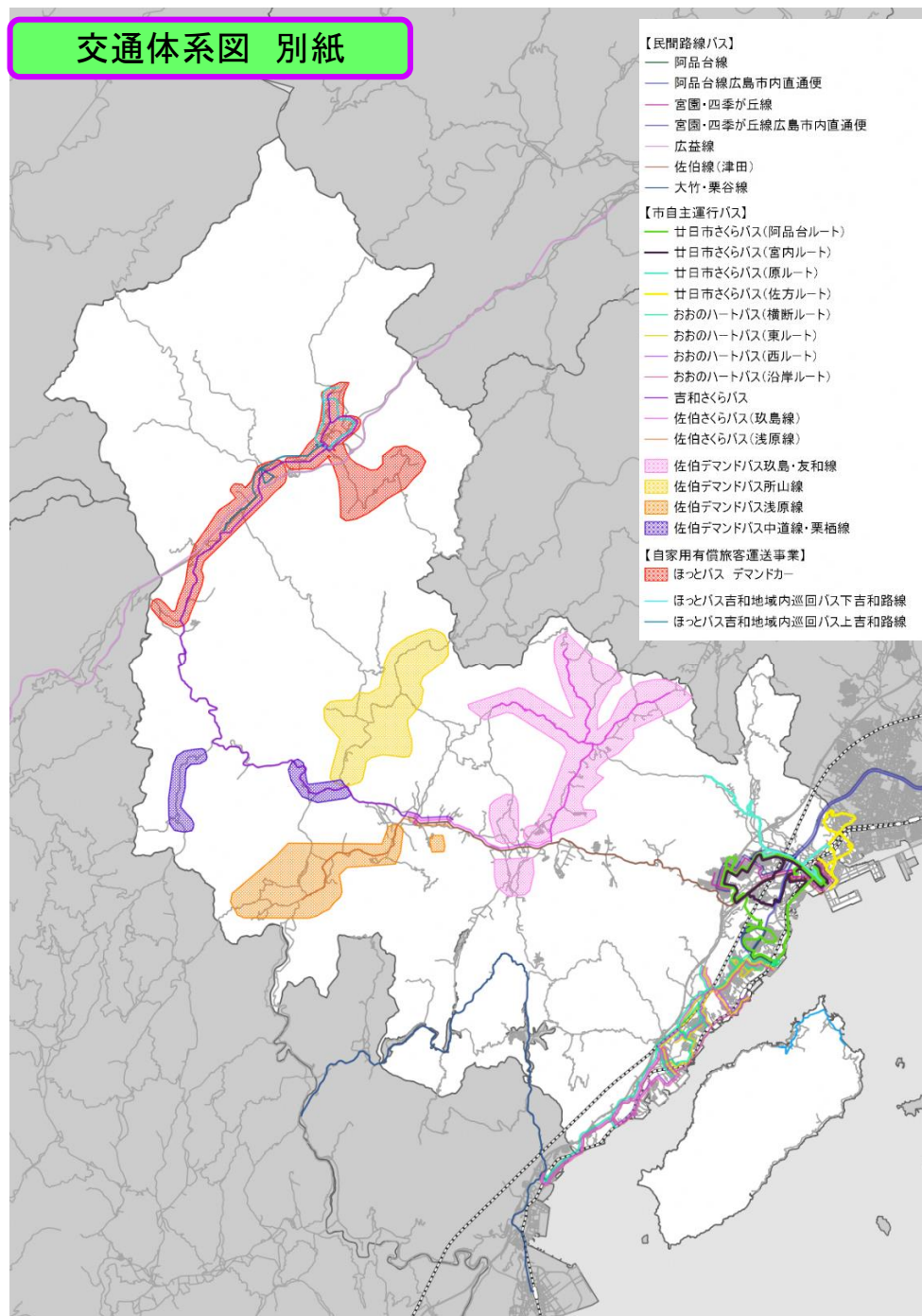
### <廿日市地域>

・市自主運行バスの運行負担金は増加傾向にあるとともに、運転手不足等の問題も深刻化してきている。市自主運行バスとして持続可能なサービスの提供を図るため、より効率的な運行ルートやダイヤを引き続き検討していく。

・市自主運行バス全線にキャッシュレス決済システム「モビリーデイズ」を導入したことから、広電バスとの共通定期券や金額式定期券など、利用者の利便性向上に資する施策をアピールし、利用者数の増加を図っていく。

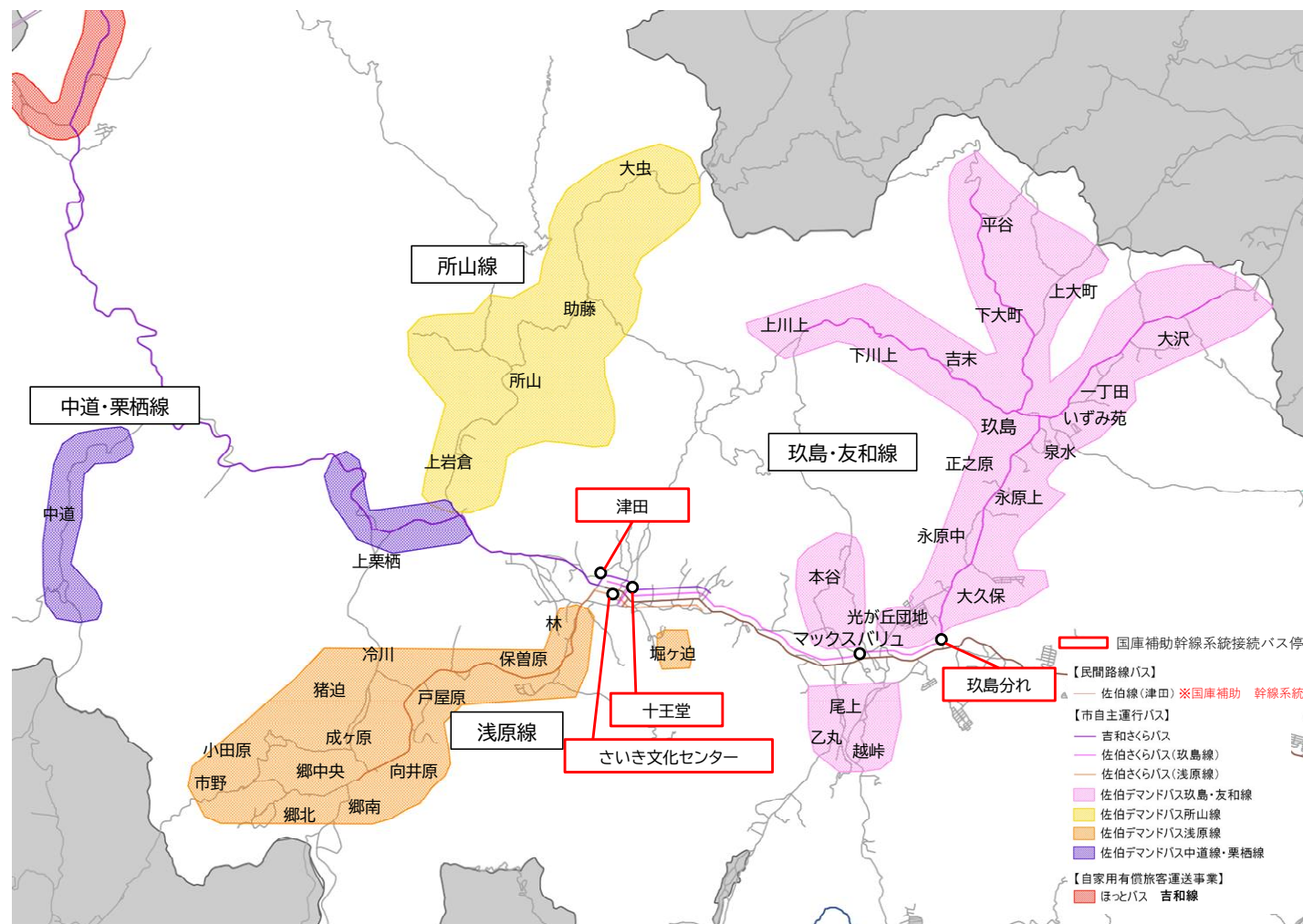
・モビリーデイズの導入により、利用者ODの取得が可能になったことから、利用者の利用実態分析を引き続き行っていく。

# 交通体系図 別紙



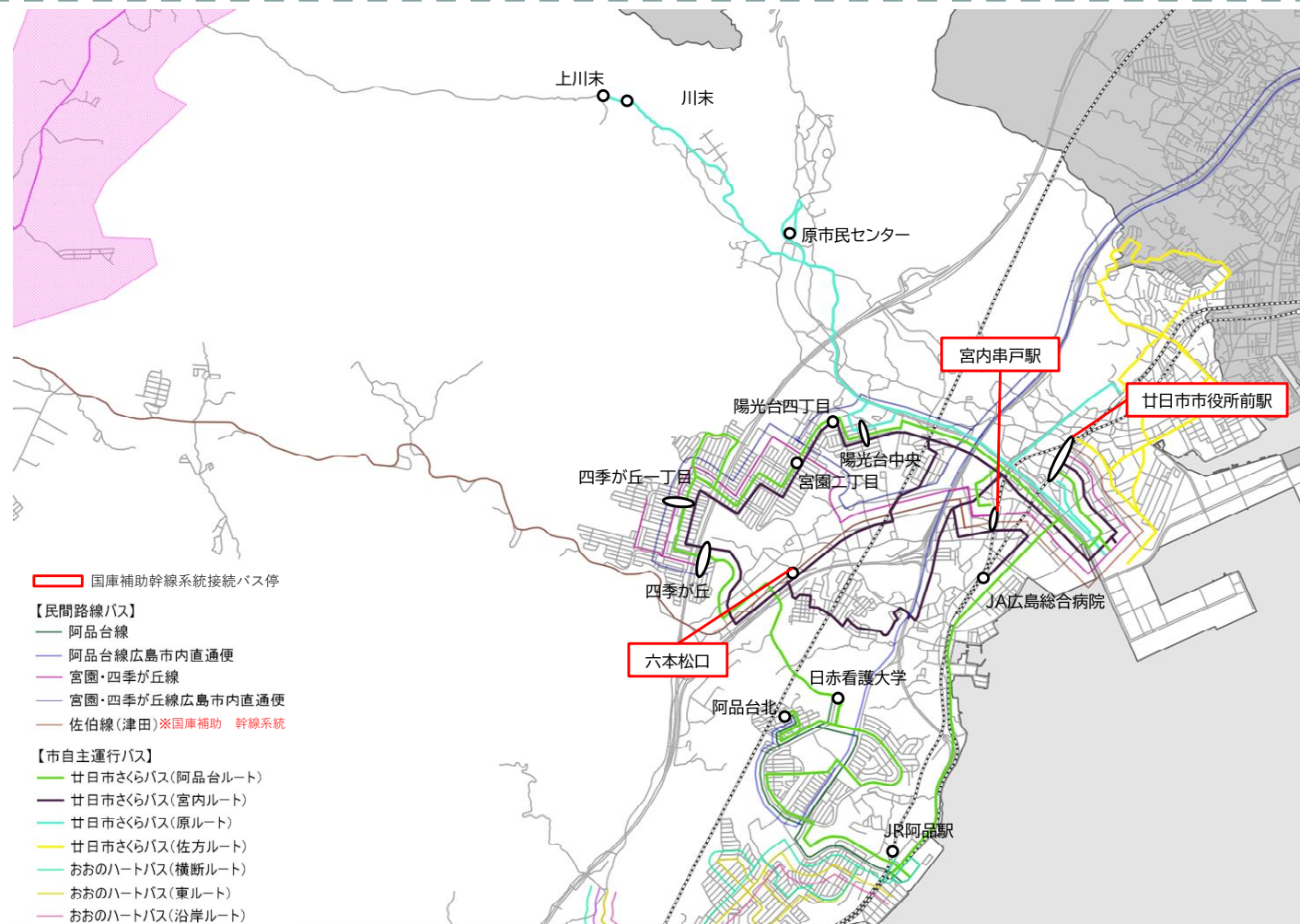
## 運行系統図 別紙

系統名 玖島・友和線、所山線、浅原線、中道・栗栖線  
 運行形態 4条路線 区域デマンド型  
 運行日・便数 玖島・友和：月水金8便、所山：火木土8便、浅原：火木金土7便、中道・栗栖：月水5便(いずれも祝日、12/31～1/3を除く)  
 運賃 大人200円、小児100円



# 運行系統図 別紙

系統名	廿日市さくらバス(阿品台ルート・宮内ルート・原ルート)
運行形態	4条路線 乗合バス(定期)型
運行日・便数	阿品台ルート 月～金13便、土日祝14便 宮内ルート 月～金12便、土日祝9便 原ルート 月～金18便、土日祝16便 ※12月29日～1月3日運休
運賃	大人150円、小児80円



## 運行系統図 別紙

系統名 **吉和線**  
 運行形態 **4条路線 区域デマンド型**  
 運行日・便数 **月～土曜日(祝日、12/31～1/3を除く)8便**  
 運賃 **大人150円、小児80円**

